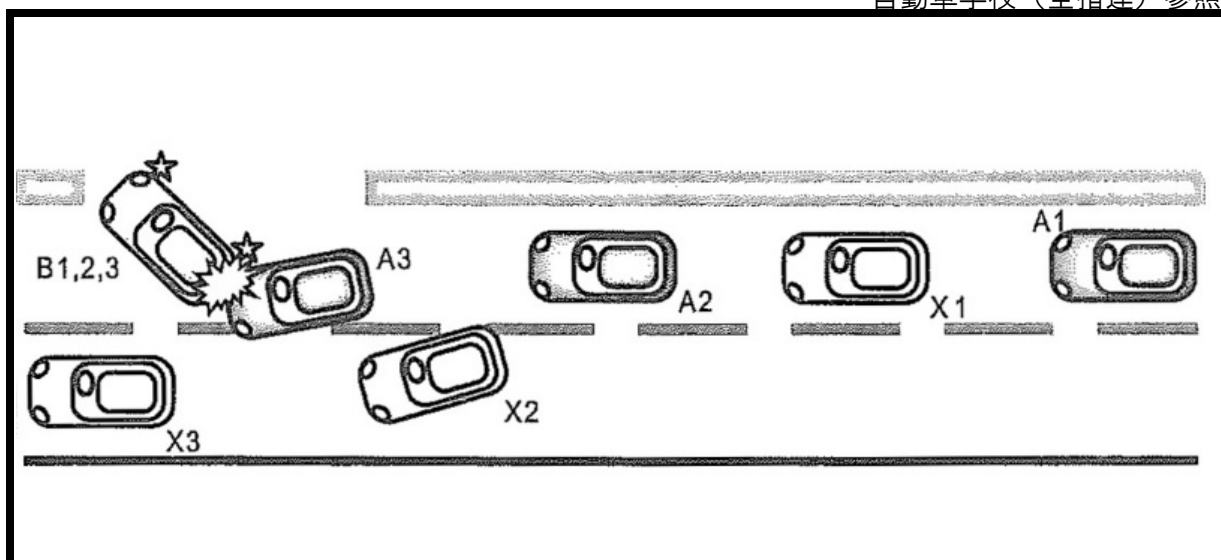


■事故の概況

自動車学校（全指連）参照



事故類型：追突

発生日時：12月 午後5時30分頃 晴れ

当事者A：普通乗用車 30歳代 男性

当事者B：普通乗用車 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは毎日通行する道路を、先行車のX車に追従して加速し、時速約65kmで走行していました。加速することに気を取られX車しか目に入りませんでした。X車が突然、第1車線に車線を変更したため視界が開け、約15m前方で右折待機しているB車を発見し、急ブレーキをかけるとともに左にハンドルを切って避けようとしてしました。交差点でもない場所であり、右折車両を予測できなかったことも影響し、回避操作も間に合わず衝突してしまいました。

一方Bは、中央分離帯の切り下げ（開口部）でUターンのため、対向車が途切れるのを待っていたところ、衝突されてしまいました。

■ 事故から学ぶ

この事例は、Aが先行車に負けたくない気持ちで頭がいっぱいであったこと、先行車の陰になり前方の様子が見えなかったこと、交差点ではなく先行車の減速、停止が予測しにくい場所であったことなどが主な原因です。

短い車間距離は、前車の急ブレーキに対応できない場合があるなど、先で起きていることが見えず、対処が遅れてしまいます。その上、中央分離帯の開口部（切り下げ部）という目立たない場所であることなどの条件が重なった事例です。普段から十分な車間距離を取って運転するよう心がけてください。

また中央分離帯の開口部（切り下げ）での右折、Uターンは、できるだけ避けることが危険に近づかない方法です。